

POWER OF ART DANCE SERIES VOL.1 黒田育世

「うみの音が見える日」

振付・構成：笠井勲 出演：黒田育世

2012年3月27日(火)～28日(水) 20:00 開場 / 20:30 開演

会場：スパイラルガーデン(スパイラル 1F)

槇文彦によるモダニズム建築を代表するスパイラル。吹抜けの開放的な空間で女性ダンサーを紹介するダンスシリーズが誕生します。

スパイラルは、3月27日(火)～28日(水)を皮切りに、スパイラルの建築における象徴的なスペースである“アトリウム”で、ダンス公演シリーズ「POWER OF ART DANCE SERIES」をスタートします。

■ 高さ16メートルの吹抜、上階へと続くスロープー、槇建築の特徴でもある広々とした空間「アトリウム」で行うダンスシリーズ「POWER OF ART DANCE SERIES」。

“アトリウム”は、カフェに隣接し、回廊のようなギャラリーに続いて、高さ16メートルの吹抜けのあるゆったりとした広さが特徴の空間です。そこには、上階のインテリアショップ“スパイラルマーケット”へ続くスロープがあり、散歩をするように気軽にアートに触れて欲しい、というコンセプトを象徴した槇文彦の建築です。

「POWER OF ART DANCE SERIES」は、この空間を舞台に「アート」のジャンルの一つとしての「ダンス」を、年1回のシリーズで紹介することで、より多くの方が気軽にコンテンポラリーダンスにふれることのできる機会を創出していくもの。また、シリーズ名「POWER OF ART」は、アートの創造性が社会や現代を生きる人々に対して成し得る力(=POWER)を信じ、スパイラルが、2011年3月、東日本大震災の直後に様々なジャンルのアーティストに協力を得て実現した復興応援企画「アートのちから」の考えを継承していくことを表します。



■ 圧倒的な存在感で観るものを魅了する

振付家/ダンサー黒田育世。

本シリーズのVOL.1でご紹介するのは、国内外のフェスティバルで活躍する実力派ダンサーであり、また演出家野田秀樹の舞台での振付や、湊かなえ原作の映画『告白』(中島哲也監督)にも出演する黒田育世。全身の力を振り絞る力強い動きと、その圧倒的な存在感で多くのファンを魅了しています。

本公演では黒田が振付家として尊敬する舞踏家・振付家の笠井勲を迎えます。数々のくことばを発しながら踊る、黒田にとって挑戦となるソロ作品。2011年、未曾有の災害の経験を基に、改めて黒田、笠井は自らの源を考え、この国の成り立ちやその長い歴史を振り返りました。それが言葉のひとつひとつになり、黒田が紡ぐ動きとともに昇華されていきます。

ぜひこの機会に、本公演をご取材いただけますようよろしくお願いいたします。

開催概要

タイトル：POWER OF ART DANCE SERIES VOL.1 黒田育世 「うみの音が見える日」

会期：2012年3月27日(火)～28日(水) 20:00 開場 / 20:30 開演

会場：スパイラルガーデン(スパイラル 1F) 東京都港区南青山 5-6-23 <http://www.spiral.co.jp/>
東京メトロ表参道駅(銀座線、千代田線、半蔵門線) B1/B3 出口

振付・構成：笠井勲 / 出演：黒田育世

朗読：尾崎若菜、川上晶子、山口奈緒子 / 音楽：松本じろ / 衣装：荻野緑

チケット：前売 3,500 円 当日 4,000 円

チケット取扱：Confetti (カンフェティ 観劇ポータルサイト)：

WEB 予約：<http://confetti-web.com/>

電話予約：0120-240-540 カンフェティチケットセンター

スパイラル：電話予約：03-3498-1171

窓口販売：東京都港区南青山 5-6-23 4F



Photo.塚田洋一

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 四元朝子(よつもと ともこ)、加藤美穂
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
E-mail press@spiral.co.jp <http://www.spiral.co.jp/>

spiral

プロフィール

黒田育世 Ikuyo Kuroda

BATIK 主宰・振付家・ダンサー

6歳よりクラシックバレエをはじめ。 「谷桃子バレエ団」に所属しながら97年渡英、コンテンポラリーダンスを学ぶ。00年より「伊藤キム+輝く未来」で活動。02年「BATIK」を設立し、『SIDE B』(02年)、『SHOKU』(04年)、『花は流れて時は固まる』(04年/09年改訂版)、『ペンダントイヴ』(07年)など次々と発表。バレエテクニックを基礎に、身体を極限まで追いつめる過激でダイナミックな振付けは、踊りが持つ本来的な衝動と結びつき、ジャンルを超えて支持されている。カンパニーでの活動に加え、鮎屋法水、笠井勲、野田秀樹などさまざまなアーティストとのクリエイションや、映画『告白』(中島哲也監督)への出演も話題に。近作として『矢印と鎖』(09年)、『あかりのともるかがみのくず』(10年)を発表、役者を起用し台詞を用いるなどジャンルにとらわれない表現を模索している。今年、BATIK10周年を飾る新作『おたる鳥をよぶ準備』を、静岡県舞台芸術センターSPACなど国内4都市で上演する。

<http://batik.jp/>



笠井勲 Akira Kasai

舞踏家、振付家

1960年代に若くして土方巽、大野一雄と親交を深め、東京を中心に数多くのソロ舞踏公演を行う。70年代大使館を主宰し、多くの舞踏家を育成する。79年から85年ドイツ留学。ルドルフ・シュタイナーの人間学、オイリュトミーを研究。帰国後も舞台活動を行わず、15年間舞踊界から遠ざかっていたが、『セラフィータ』で舞台に復帰。その後国内外で数多くの公演活動を行い、「舞踏のニジンスキー」という称賛を浴びる。代表作『花粉革命』は、世界の各都市で上演された。ベルリン、ローマ、ニューヨーク等で作品を制作。2011年4月は、アンジェ・フランス国立振付センターで、公演及び作品指導、9月にはイタリアツアーを行った。今年フランスのリレ、パリでの公演、『UTROBUNE』のイタリアツアーに加え、11月末に世田谷パブリックシアターにて麿赤児との舞踏公演を予定している。

■スパイラルの建築

建築家 槇文彦による設計。(1985年開館) モダニズム建築を代表する作品であり、正方形、円、正三角形、円錐など「純粋幾何学形体」を基本要素とし、外観には数多くの部分的形体を積み上げていくというコラージュ的手法を採用。また、建築素材にはアルミパネルやガラス、金属的なタイルを多用しています。

1階のスパイラル(螺旋)状にスロープが設置された円筒形のアトリウム(吹抜空間)と、エントランスホールから3階へと続くエスプラナード(大階段)に代表される、ゆったりとした贅沢な空間の使い方はスパイラルの特色のひとつです。

1987年には、アメリカ建築家協会の選定する、その年の世界で最も優れたアルミニウムを使った建築に贈られる「R.Sレイノルズ賞」受賞。また2012年には日本建築家協会が、25年以上に亘って「長く地域の環境に貢献し、社会に対して建築の意義を語りかけてきた建築物」を表彰するJIA25年賞を受賞することが決定。



槇文彦 Fumihiko Maki

1928年東京生まれ。東京大学工学部建築学科卒、ハーバード大学大学院修士修了、のちに両大学にて教える。1965年東京に(株)槇総合計画事務所を設立。その代表として国内、海外において幅広く設計活動を展開し、現在はワールド・トレードセンターのタワー4を手掛ける。

代表作品：ヒルサイドテラス、スパイラル、幕張メッセ、風の丘葬祭場、テレビ朝日本社、MITメディアラボコンプレックス。

受賞：日本建築学会大賞、朝日賞、毎日芸術賞、プリツカー賞、UIAゴールドメダル等 <http://www.maki-and-associates.co.jp/>